



酒々井町長 小坂泰久

住みやすく

持続可能なまちづくり



令和3年12月、小坂町長が無投票当選により再選され、町長として第5期目を迎えました。再選後、初めての議会となる12月議会定例会の冒頭、小坂町長が所信表明演説を行いました。

本日ここに令和3年第7回酒々井町議会定例会を召集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては、年末のご多忙の中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

本日は、町長に再選いたしました、初めての議会定例会でありますので、ここで私の所信を申し上げさせていただきます。

はじめに、昨年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界的に猛威を振るい、緊急事態宣言の発出や期間の延長など、不要不急の外出や会食の自粛が求められ、社会行動や生活様式が様変わりし、経済へも大きな影響を与えました。

このような状況の中、町民の皆様、事業者の皆様には、感染防止対策にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

また、医療や介護の現場で治療や看護等にあたられている従事者の皆様をはじめ、町民の生活基盤を支えている皆様に、心から敬意を表します。

新型コロナワクチン接種につきましては、町内5つの医療機関で接種を開始し、その後、プリエール酒々井で集団接種を開始しましたが、町民の皆様の意識の高さと行動の表れによりまして、12月12日現在で、1回目の接種率が89.69%、2回目の接種率が88.98%と、県内でも上位の接種率でありました。

今後も町民の皆様におかれましては、引き続き感染防止対策にご協力をお願いいたします。

さて、私は、16年前に地方分権の確立と行財政基盤の強化を図り、地域の特色を活かし、創意工夫を凝らしながら、町民一人ひとりが誇りと愛着を持ち、生きがいを実感できる酒々井町の実現を目指すとともに、町民の視点から、町民の立場に立った町政運営に渾身の力を傾注する決意で、酒々井町長に就任し、以来4期16年間、精魂を傾け努力してまいりました。

振り返りますと、平成の大合併という大きなうねりの中、酒々井町が独立の道を選択した直後、私の第1期目がスタートいたしました。就任直後は、世界的な金融・経済危機が深刻度を増す中、急速に進む少子高齢化、地方分権や規制緩和、さらに政権交代による新たな国の仕組み等、時代は大きな変革の時を迎え、小規模自治体としての存続をかけ、町の借金体質からの脱却を目指し、行政改革に取り組んでまいりました。

第2期目は、町民福祉の向上と町の均衡ある発展を図るため、子ども医療費の助成拡大など子育て支援の充実や、保育園・学校施設耐震化100%の達成、全教室へのエアコン設置及び太陽光発電設備の整備など教育環境の充実に積極的に取り組んでまいりました。

そして、平成25年3月、永年の町の悲願でありました酒々井南部地区新産業団地のまちびらき、さらに同年4月、酒々井インターチェンジの開通と酒々井プレミアム・アウトレットの開業により、酒々井町は新たな時代の扉を開きました。

第3期目においては、アウトレット効果により交流人口が急増する中、「酒々井」の知名度・地域ブランド力の向上による波及効果を図るため、活力あるまちづくりに活かせるよう努めてまいりました。

さらに、地域の防犯力の向上を図るため、防犯ボックスの運用開始、郷土愛やふるさと意識を醸成する酒々井・千葉氏まつりの実施、子育てを支援するファミリーサポートセンター事業の開始など、町民生活に身近な施策の充実にも取り組んでまいりました。

第4期目においては、地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、岩橋保育園の隣接地に「子育て支援センター あいあい」を開所し、安心して子育てができる環境を整備いたしました。



子育て支援センター「あいあい」

また、町民の皆さまからの要望が最も高かった医療施設である「千葉しすい病院」及び「酒々井虎の門クリニック」が開院され、地域医療の確保が図られました。

学校環境の整備につきましては、老朽化した中学校体育館の屋根・床の張り替え及び猛暑対策による大型換気扇の新設などの大規模改修工事を実施するとともに、生徒の安全で快適な運動環境を確保するため、テニスコートを新設したほか、GIGAスクール構想による小・中学校の児童生徒及び教職員にノート型パソコン1,700台を配備し、ICTを活用して創造性を育む教育の実現に取り組みました。

さらに、町民生活を支える中心的な役割である役場中央庁舎の耐震化工事及びバリアフリー化によるエレベーターの設置を実施してまいりました。

こうした私の町政運営に対し、議会議員の皆様をはじめ、多くの町民の皆様のご理解とご支援をいただき、深く感謝を申し上げます。

町長としての5期目は、町の最上位計画となる第6次酒々井町総合計画の前期基本計画がスタートします。これまでのまちづくりの成果を礎に、町民の皆様の安全安心の確保を最優先とし、町民福祉のより一層の向上とともに、地域の均衡ある発展を進めるため、各種施策の実施に取り組み、人口減少社会においても住みやすく持続可能なまちづくりを進めてまいります。

また、さらに、私の5期目、第5ステージとしまして、5つの施策を考えております。

第1に「誰もが安全に安心して暮らせる町」として、

新型コロナウイルス感染症の第6波に備えた感染防止対策の準備と町内医療機関と連携を図りながら、5歳以上、11歳以下の児童へのワクチン接種並びに3回目の追加ワクチン接種に万全を期してまいります。また、長年の懸案事項である、大雨等により頻繁に浸水被害を受けている中川周辺及び馬橋川周辺の総合的な観点での治水対策を重要課題として、解決に向け取り組んでまいります。

第2に「子どもたちが健やかに育つ町」として、

子育てに関するニーズが高まる中で、保育サービスの充実、ひとり親家庭の自立支援、結婚・妊娠・出産に向けた支援の充実など、子育て支援の更なる充実を図ってまいります。また、現在進めている酒々井小学校用地の公有地化及び酒々井中学校のグラウンド拡張整備を図っていくとともに、町の歴史・文化などを幅広く学習プログラムとして活用した、酒々井学を推進し、郷土に対して愛着と誇りを育み、子どもたちが酒々井町に住み続けたいと思えるような教育環境の整備に取り組んでまいります。

第3に「誰もがいきいきと生活できる町」として、

げんき館などを活用し、高齢者と多世代の方々との地域交流を促進し、高齢者の引きこもり防止や介護予防を推進してまいります。また、介護等が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を進めてまいります。

第4に「魅力ある雇用の場をつくり定住促進」として、

農業や商工業の振興をはじめ、墨工業団地・南部新産業団地を中心とした酒々井インターチェンジ周辺地区の土地利用の活性化を図るため、近接する成田国際空港の立地を活かした企業誘致に取り組んでまいります。また、新たに京成宗吾参道駅周辺のまちづくりの形成を図り、雇用の創出と定住促進に向け取り組んでまいります。

第5に「歴史・文化・環境を大切にした町」として、

町には、国史跡本佐倉城跡・墨古沢遺跡をはじめとする歴史・文化遺産があります。酒々井町の歴史・文化遺産を活用し「まちの顔」と位置づけしていくため、保存・整備の取り組みを行っていくとともに、観光資源として、魅力情報の発信を推進し、観光誘客など町の活性化を図ってまいります。また、豊かな自然と快適な生活環境を維持するとともに、脱炭素化の将来ビジョンを策定してまいります。

以上、町政運営の指針として申し上げましたが、高齢化に伴う社会保障費や公共施設の老朽化による維持管理費の増加など、山積する行政課題に対して、安定した財源の確保を図りつつ、効果的な行政運営を行い、豊かな自然と歴史を大切に、活力ある安全で安心なまちづくりをさらに進め、すべては町民のために、町政運営にあたってまいりますので、議会をはじめ町民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信の一端といたします。よろしくようお願い申し上げます。

第5ステージ 5つの施策



①誰もが安全に安心して暮らせる町

- ・新型コロナウイルス感染第6波に備えた予防対策
- ・5歳以上、11歳以下の児童のワクチン接種ならびに3回目の追加ワクチン接種
- ・大雨等により被害を受けている中川及び馬橋川周辺の総合的な治水対策



②子どもたちが健やかに育つ町

- ・子どもたちが健やかに育つ町づくりを進め子育て支援の更なる充実を推進
- ・小・中学校の更なる教育環境の整備
- ・町の歴史・文化学習プログラム「酒々井学」を推進し、郷土に対する愛着と誇りを醸成



③誰もがいきいきと生活できる町

- ・高齢者と多世代の地域交流を促進し、高齢者の引きこもり防止や介護予防を推進
- ・住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進



④魅力ある雇用の場をつくり定住促進

- ・酒々井インターチェンジ周辺地区の土地利用の高度化
- ・インターと成田国際空港への近接さを活かした積極的な企業誘致
- ・京成宗吾参道駅周辺のまちづくりの形成を図り、雇用の創出と定住促進



⑤歴史・文化・環境を大切にしたい町

- ・町が有する歴史・文化遺産の保存・整備を促進し、観光資源をして魅力発信や観光誘客を促進
- ・豊かな自然と快適な生活環境を維持し、脱炭素化の将来ビジョンを策定